

【地域活動】

戸塚区民市

戸塚区民市とは、毎月第3土曜日に戸塚区役所の駐車場にて行われている朝市のことであり、地域活性化を目的としている。ボランティアセンター横浜学生メンバーが参加するきっかけとなったのは、4年前に、区民市を開催している商店街の方から「学生も一緒に参加して街を盛り上げてほしい」というものであった。お誘いをいただいて以降、学生と地域を繋げることを重点として活動してきた。また、ボランティアへの第一歩としての役割も含有している。学生側からは、希望して露店のお手伝いや子ども企画などをさせていただいた。さらに、昨年度に続き国際ボランティアサークルである「あちょみだ」・「ぼけっと」も参加させていただいた。この他「MGパール」が新たに参加の意思を示している。

昨年度の成果としては、上記記載のとおり「MGパール」が新たに参加すること、今まで商店街側からお誘いの無かった「戸塚御結び広場」への参加などが挙げられる。また、昨年度は、防犯啓発と称して神奈川県警本部の方との繋がりを新たに形成した。昨年度の反省点としては、区民市の一般学生への宣伝不足により、参加者が上記サークル以外では1人もいなかったこと、商店街側と学生側とでの意思疎通不足などが挙げられた。これらの問題点の解決方法としては、前者はポスター掲示や掲示板の積極的な活用及び、口コミによる宣伝を行うことにより、多少なりとも解消されるのではないだろうか。後者に関しては、担当者が商店街側と密に連絡を取り、また商店街側と学生側の考えの相違を理解することが大切なのではないだろうか。また、現在会場として使用している戸塚区役所は、2013年3月に戸塚駅前に移転する。このことにより、現在の庁舎周辺にある商店街は少なからず影響受けるのではないかと思われ、2013年度は戸塚西口にとって、区民市にとって大事な年になるのではないかと思う。

以上のことを踏まえて、2013年度も変わらず商店街の方と連携をして、区民市・戸塚西口を盛り上げたいと思う。



2012年10月の区民市の学生企画



2012年7月の学生企画

(学生メンバー 経済学部経営学科2年 森健太)

大木農園

2009年度より横浜キャンパスにおいて推進された「エコキャンパス」計画の一環として、大学側と大木農園の間には「地産地消」をテーマに協力関係が構築されていました。翌2010年の2月には、ボランティアセンターの呼びかけにより、学生が直接大木農園を訪れて農作業の体験を行うようになり、以来、「大木農園企画」と称して当企画は活動を継続しています。

大木農園企画の魅力は、①有機農法を採用する農家で直接農作業に携われる、②専業農家である大木さんから直接お話を伺うことができるといった点にあります。このような経験の場が戸塚という学生に近い場所にあり、また毎月2回の活動により多くの学生が参加できる仕組みが整っています。大木農園企画では、活動に参加される学生に向けて、こうした環境・農業への理解・経験の場を提供することに徹しています。家庭菜園や個人農園主の増加により、一般に農作業のイメージは自然豊かで爽やかなものと捉えられがちですが、実際の農作業は過酷で忍耐力が求められます。本年度は、そうした普段目に見えない部分も含めた“農業”を理解すること、関心を持っていただくことを念頭に活動を行いました。そのため農業や自然・環境に関心のある学生はもちろんのこと、明学生のみならず他大学生をも受け入れ、活動参加に関してもある程度の“ゆるさ”をもって対応する柔軟で寛容な運営姿勢にて取り組みました。イベントに関しては、毎年夏に行われるバーベキューのほかに本年度から春にイチゴ狩りのイベントも企画・実施し、それぞれ大変多くの方々が足を運んでくださいました。また昨年度に設置されたメーリングリストもその規模は30人を超し、本年度も多くの新規参加の方々がリピーターとしてご参加いただいています。

活動の参加者には環境に関心のある学生が多く、一般学生だけでなく留学生や他大学生も多々参加されています。またその多くは農作業未経験者であり、今後も多くの学生が農業に関心を抱く、あるいは農業への理解を深めることのできる「きっかけ」としての企画であるよう心掛け、運営していきます。



参加者に農作業の指導をする大木氏



大木氏や参加者同士の交流

(学生メンバー 社会学部社会学科2年 花里裕史)

どうせ登校するなら

【活動の目的と実施内容】

あまりかたくならず、気軽に参加できるボランティアとして学生へ紹介しているのが、ゴミ拾いボランティア「どうせ登校するなら」の活動である。環境への配慮を学びつつ、他学生をはじめ、いろいろな人たちとの交流の場となることを目的として実施してきた。参加者は8時に戸塚駅地上改札前に集合し、ゴミを拾いながら大学指定の正規通学路を歩いて登校する。目的地である明治学院大学横浜キャンパスへは、毎回、9時頃の到着を目安にしている。今年度は、神奈川県警察の方も参加していただき、より活気のある活動となった。また、今年度の11月から試験的に「どうせ下校するなら」も行った。こちらは17時にボランティアセンターに集合し、防犯キャップをかぶって防犯を呼びかけながらゴミを拾い、18時に戸塚駅へ到着することを目安にしている。



活動中の様子



活動後の集合写真

【防犯キャップについて】

この企画が神奈川県警察の方の目に留まり、「防犯」という観点を取り入れた活動を行うことを勧められた。それまでの活動の主な目的は「気軽」「環境美化」「地域交流」であったが、「防犯」を取り入れることで、さらに地域に密着した活動ができると考え、「神奈川県安全・安心まちづくり団体事業補助金交付」の制度に基づき、団体の登録を申請した。そして、神奈川県警察に団体として受理され、その交付金が支給された。交付金を使って「防犯キャップ」を20個作成した。防犯を呼びかけることで、より安全で安心できるまちを形成することを目指す。

【他のゴミ拾いイベントへの参加】

「どうせ登校するなら」の企画をよりよいものにするために、いい物件リスト株式会社が主催する「スポーツGOMI拾い大会」に参加した。これは制限時間内に拾ったゴミの量と質でポイントを競うものである。春学期は上大岡大会、秋学期はセンター北大大会と戸塚大会に審判ボランティアや一般のチームとして活動した。

(学生メンバー 経済学部経済学科2年 綿引慎吾)

アジアの“わ”

【活動経緯】

アジアの“わ”とは、マレーシアからの正規留学生であった学生メンバーと日本人学生が協力し合い、2010年度から始められた企画である。正規留学生は、日本語が上手であるという理由で、大学側の支援やイベントが少ない。そのため、履修や勉強、文化の違いなどの悩みを相談できる友人が作りにくく、あまり大学生活を満喫できないという声を聞くことがあった。

そこで始まったのが、アジアからの正規留学生が参加できるコミュニティづくりをするアジアの“わ”である。月に2回程のイベントを行い、互いの国・文化などを理解し合うことで、留学生と日本人学生、留学生同士の接点を増やし、交流を深めてもらうことを目指している。今年度は留学生を含め、30人弱のメンバーで活動を行った。

【活動内容】

今年度最初に行われた Welcome Party では、アジアの“わ”や正規留学生について説明し、多くの学生が関心を持ってくれた。4月に行ったお花見や6月の流しそうめん、7月の七夕 Party では、留学生に日本の文化を知ってもらうことができ、友人をつくるきっかけとなるイベントにすることができた。また、アジア各国の知識を深めるために、5月に中華街散策や6月にアジアのお菓子を用意したお菓子 Party、10・11月に映画鑑賞会、12月には各国のお茶を楽しめる Xmas Party を開催し、毎回楽しい活動となりリピーターを獲得した。その他、10月のスポーツ大会では、分け隔てなく交流を深めることができ、なかよし TV ではメールや偏見をテーマにしたの各国の文化の違いについて深い話し合いをすることができた。

今年度は看板やチラシ、ポスターだけでなく、Facebook や Twitter など積極的に宣伝を行うことで、アジアの“わ”を昨年度以上に広めることに成功した。



なかよし TVの様子

【さいごに】

来年度春からアジアの“わ”はボランティアセンターから独立して団体化することが決まり、それに向けて今後の活動や体制について話し合いを行っている。多くの課題が残っているものの、アジアの“わ”をさらに広く知ってもらい、より良い活動にしていくことを目指していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会学科2年 花里裕史)

ボラフェスタ in KANAGAWA 2012

【活動経緯】

ボラフェスタとは日本赤十字神奈川支部が主催しているイベントであり、神奈川県内のボランティア活動を行う大学生がボランティアを通して、若い世代に献血運動の促進を呼び掛けることが目的である。また、ボランティアセンター学生メンバーにとって、自分たちの活動を外部に発信できる貴重な機会であり、同様に他大学のボランティア活動を知り、視野を広げ、交流を深めることも目的としている。私たち学生メンバーは2009年度から参加していて、今年は9月29日に開催された。

【活動内容】

全体企画では例年に引き続き行われた手話歌に参加した。学生メンバーからは3名が合唱に参加し、他大学の学生と本番まで練習を重ね、当日たくさんの来場者の前で手話歌を披露した。また、今年度から新たに設けられた献血ブースでは、学生メンバーが事前に神奈川県内にある献血ルームを訪問しリサーチを行った。献血ルームの様子や献血までの流れ、献血後にもらえるものなどをわかりやすく展示、紹介したことで、来場者に献血の知識と理解を深めることができた。

団体ブースでは、活動紹介の展示とボトルキャップアートを行った。今回新たに取り入れられたクロスワードパズルのおかげで、ブースの中まで来場者に入っていただき、活動を紹介できた。また、ボトルキャップアートでは子どもから大人まで気軽に参加していただき、これを通してボトルキャップが800個で1つのワクチンに交換され、途上国に寄付されるというエコキャップ回収活動を知っていただけた。

【さいごに】

今年は前回より来場者が少なかったものの、献血ブースを設けたことで、今まで以上に献血を広く知っていただくことに成功した。また、昨年の活動を見て、当日わざわざボトルキャップを持ってきてくれた方がおり、ボトルキャップアートは今後も続けていきたい企画である。



手話歌を披露している様子



完成したボトルキャップアートと学生メンバー

(学生メンバー 国際学部国際学科2年 小澤朋香)

倉田小学校

【企画が始まった経緯】

明学生と倉田小学校（以下、倉田小）との関係は、以前からボランティアサークルなど個々にはあったが、本格的にボランティアセンターとの活動が始まったのは2010年からである。きっかけはボランティアサークル「ほけっと」（カンボジア学校建設を目標に設立された団体）に所属し、倉田小と関わりがあった先輩が、子どもたちのためになる取組を始めたことによる（詳細は2010年度活動報告書P78～79参照）。その状況下で大学・小学校間の信頼が生まれ、距離が縮まった。先輩はこの活動に意義を感じ、ボランティアセンター学生メンバーとなることで、継続した取組に発展させたいとの強い思いで始まった。

【企画の活動内容】

活動内容は多岐にわたり、年間を通じて行っているのが田植えの授業手伝い（代掻き、田植え、草刈、稲刈り、脱穀、餅つき）や運動会・秋祭りなどのお手伝いなどを行っている。それに加え現在は特別支援学級での授業・運営支援なども行っている。また今年度には5年3組の児童たちと共に「どうせ登校するなら」（詳細は本報告書53ページ参照）の活動を行った。

【活動の目的】

活動の対象は倉田小の児童である。明学生は教員とは違った立場からのサポートができる。普段の生活ではあまり関わりを持つ機会がない大学生と小学生が、年代を越えて接する事により、双方の学びに繋げようというのが、活動の一つの大きな目的である。また、この活動を通じ、戸塚周辺の人たちと「顔が見える関係」を構築することも目的のひとつである。

【今後の展望】

倉田小学校との協力体制を維持、発展させるのはもちろんのこと、倉田小の児童たちにボランティアセンターの活動への参加を積極的に呼びかける等行っていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会学科2年 石井太朗)

MG 子ども

我々学生メンバーや一般学生の中には、将来子どもに携わる仕事に就くこと、あるいは子どもと関わり自らの視野を広げたいと考えている者が多い。そういった希望に応えるため、当企画を2011年度にスタートさせ、2012年度からは本格的な活動を展開させてきた。

前述のような背景から、当企画の主な活動方針として以下の2つが挙げられる。

まず、1つ目が、実際に保育園の業務を手伝わせて頂き、職員の方の負担を減らせるよう配慮しつつ、子どもを預かる立場について理解を深めることである。

次に、2つ目は子どもたちと大学生が触れ合うきっかけを提供し、学生・子ども双方にとって得るもののある活動とすることである。

現在の活動先として、川上保育園が存在する。11月からはより多くの一般学生を招けるように「とつとの芽」と協力し、少なくとも月1回は活動をしている。

川上保育園での主な活動は、職員の方のお手伝いとして園庭の整備や運動会の準備などを行った。子どもたちとふれあう活動としては、子どもたちのあそびの時間に一緒に遊ぶほか、7月に七夕さまの手話(手遊び)や、12月にはボトルキャップアートでクリスマスツリーなどを子どもたちと一緒に作成した。

普段のあそびの時間で一緒に遊んでも子どもたちは喜んでくれるのだが、このイベントを行ったときは特に“もっとやりたい!”“今度はいつやるの?”と子どもたちの反応もよく、とても喜んでくれた。職員の方からも“子どもたちが喜んでくれたので良かった”“クリスマスツリーが綺麗に見えた”など、お褒めの言葉をいただいた。

さらに、10月からは一般学生の募集を開始し、川上保育園の企画に8名、とつとの芽の企画に1名、計9名の一般学生の参加があった。

11月から活動を開始した「とつとの芽」では、活動の最後に職員の方や学生メンバーとともに一般学生に、子どもたちの前で手遊びや大型絵本の読み聞かせの発表をしてもらいたいと考えている。また、「とつとの芽」ではそのフォローや子どもたちの安全面の確保などの活動を行っている。

今年度から本格的に活動が始まった企画なので、まだまだ成長過程の企画である。しかし、この短期間に多くの一般学生が興味を持って参加してくれたということは、この企画がさらに成長できるという証拠でもあると思われる。

したがって、今後は一般学生への周知活動も引き続き行うほか、各活動先でのお手伝いにも力を入れていきたいと考えている。

そして、なにより子どもたちが楽しく、喜んでくれるようなイベントをたくさん考えていきたい。

(学生メンバー 経済学部経済学科2年 和智雄貴)

小田急コスモス

小田急コスモスは、横浜キャンパス北門に隣接した小田急分譲地にて、明学生と地域住民の交流を図ることを目的とした学生グループであり、ボランティアセンターと協働しながら活動を行っている。活動内容としては、毎月第1・3火曜日の13:30～16:00に小田急自治会館にて行われる「サロンすみれ」及び毎月第3木曜日の午後に同じく小田急自治会館にて行われる「しあわせの会」がメインの活動となっている。その他では、毎年7月に開催される小田急自治会館の夏祭りや地域清掃などといった活動を通じて、地域住民の方との交流を行っている。これらの活動の柱となっているのは、世代間交流である。明学生の側から見ると、普段関わることのない地域住民の方と関わることによって、新しい知識や見識を広げることができ、また地域住民の方から見ると、明学生と話などをするによって、現代の若者の考えなどを吸収することができるのではないだろうか。以上のことから、この活動は明学生・地域住民双方にとってそれぞれメリットがあると言えるであろう。

「サロンすみれ」では、お茶を飲みながら地域住民の方と対話などを通じて交流するという活動を行っている。今年度は、参加学生がほとんどいなかった為、持ち込み企画はなく、対話1本で行った。対話した中でも、横浜キャンパスが出来たころや昔の戸塚の街の様子を聞かせていただくことができ、昔の戸塚を知るきっかけとなった。「しあわせの会」に関しては、授業の都合上、春・秋学期通じて参加できなかった。また、夏祭りに関しても都合がつかなく参加できなかった。

今年度の反省点であるが、参加学生の人数が大幅に減った点が挙げられる。これは、活動日である火曜日及び木曜日に白金キャンパスにおいて授業が入っていたためである。また、ボランティアセンター横浜学生メンバーに対しても参加の呼びかけを行ったが、参加者は皆無であった。また、一般学生向けの宣伝もボランティアセンターのHP以外ではあまり行っておらず、これも活動減少の要因となっているのではないかと。

来年度へ向けては、一般学生への宣伝強化が挙げられる。方法としては、ボランティアセンターでの広報・ブログの活用・口コミなどがある。他には新歓の時期に1年生に参加してもらうなどといった方法もある。これらの方法を通して1人でも多くの明学生がコスモスの活動に参加してくれたらと思う。

(学生メンバー 経済学部経営学科2年 森健太)

MG パール

私たち MG パールは、生物多様性の宝庫と呼ばれる東南アジアのボルネオ島で深刻化する森林伐採問題の改善や、日本人が大量に消費するパームオイルの原料となるアブラヤシのプランテーション開発により住処を奪われた野生動物保全の活動を行っている。この活動は NPO 法人ボルネオ保全トラストジャパン (以下 BCT) と明治学院大学ボランティアセンター、学生との三者協働で行っており、学生はボルネオ原産の淡水パールを使用したアクセサリーの制作・販売をし、売り上げの半分を森林保全のための資金として、BCT を通じて、ボルネオ島に寄付する「パールの森プロジェクト」に取り組んでいる。これはパールアクセサリーの販売を通じて、より多くの人に現在の消費生活の背景にある問題に気づいてもらうためのきっかけ作りすることを目的としており、こうした背景から、イベントの企画や参加、ワークショップ等による啓発活動も行っている。

今年で 6 年目を迎えた MG パールは、昨年度できた新たな繋がりを形にする事を大切に活動を行った。新一年生も新たに加わった 6 月は、NHK 主催の環境イベント「エコパーク」にて、子どもを対象としたトートバック作りのワークショップを行った。また、パールアクセサリーの制作会も定期的に行った。こうした参加型のイベントを行っていくなかで、白金地域の造形作家や他団体など多様な人との交流が生まれ、その中から思いがけないアイデアや物作りの楽しさに気づかされた。今後は作品づくりによりこだわりをもってもいいのではないかと、手作りの良さを生かしたオンリーワンの商品作りをしたいという思いも出てきた。パールアクセサリー販売では、2011 年より開始した横浜キャンパス生協での販売を継続するとともに、白金キャンパスの生協にも新たに販路を拡大することができた。店頭での販売に際してはディスプレイに、ボルネオ島の様子がよく伝わるような工夫をした。夏にはメンバーの紹介により葉山の海の家の一部を借りた常設販売も行った。こうした売り上げは 182,800 円になった。この内半分の資金が「パールの森プロジェクト」への寄付金となり、半分が材料費を含めた活動費となる。森の面積に換算すると 457 畳分を守るための資金に相当する額となった。来年度は今年得た「繋がりから生まれる物の魅力」を更に具体的なものにして行く事で、メッセージやストーリーをより明確にした商品開発や参加型の企画を展開していきたい。



(経済学部経済学科 4 年 莊原美菜子)

COS (Circle Of Shirokanaise)

【COSとは?】

COSとは、“Circle Of Shirokanaise”の略で、明治学院大学が立地している白金という地域に根ざしたエコ活動を行っている。気軽にできる活動を通して参加した学生同士のつながりを作ることが目的である。主な活動内容は大学周辺のゴミ拾い活動、ペットボトルキャップの回収、ブログ更新の3つである。

【活動報告】

大学近隣でのゴミ拾い活動は月に1～2回程度のペースで行った。参加者は少なく、多くても4人ほどであった。しかし、身近な友人と行ったり、卒業生の先輩が参加して下さったり、新しく学生メンバーとなった参加者にCOSの活動を紹介しつつ行うなど、COSが目的としている「人とのつながりをつくる」という点で毎回意味のある活動であったと振り返る。

キャップ回収の活動に関しては、昨年度末にペットボトルキャップの回収ボックスの名前を募集し、「ふたまる君」に決定された。名前がついたことで本活動の認知が白金校舎内でさらに広まったのか、回収のスピードは昨年度にも引けを取らないものであった。2012年10月には港区リサイクル事業協同組合の方に回収に来ていただいた。約1年間で回収したキャップの重量は110kgであった。

以上のような活動についてブログで報告したが、更新が遅くなり、タイムリーな記事が書けなかったことが反省点である。一方で、記事を読んだ人から「おもしろかったよ!」と言われることも多く、内容面は評価できると感じている。

【今後について】

後継者がいないことから、今年度をもってCOSは解散することとなる。しかしながら、これまでCOSが培ってきた「ゆるい活動から人とのつながりを生む」ことやその魅力・価値は、後輩に伝えたい財産である。その財産からまた新たな活動が生まれてくることを願う。校内での認知が高いペットボトルキャップの回収については、年度末までに後輩に引き継いでいきたいと考えている。



ペットボトルキャップ回収ボックスのふたまる君



ゴミ拾い活動中

(学生メンバー 心理学部心理学科4年 佐藤ゆり)

山黒

【はじめに】

山黒とは、障がい者支援団体に関わる学生同士のネットワークを構築するために発足したプロジェクトである。より多くの学生や地域を巻き込んだ企画や、各団体での関わりから得た事を生かした企画が立案・実施出来ると期待している。またそれによって、福祉に関心のない学生や地域住民に障がい者のことを知ってもらい、新たな人と人とのつながりを生みだしていくことを目指している。今までグループホーム・レインボー白金と「みんな de ごはん」の開催（詳細は下記）や、学内に障がい者を招いて交流する「白金でまったり過ごす会」などの活動を行ってきた。

【活動報告】 みんな de ごはん

グループホーム・レインボー白金内で開催。内容は、レインボー白金のキッチンをお借りして、利用者・スタッフ・学生など様々な人が一緒に料理を作り、みんなで食べるという活動である。毎回リーダー（匠）を決め、匠を中心にその日のコンセプトに合わせた調理を行う。今年度は9回活動を行い、地域の方、レインボー白金スタッフ、学生等が匠となって、塩麴を使った料理や、男の料理の回ではパエリアなど、みんなが楽しみながら作れる料理を作った。また、今年度は学生が匠になることが多く、テーマに合わせての装飾や、カラオケ大会を行ったりした。

【成果と反省・今後】

今年度は、みんな de ごはんのみの活動であった。この活動は、地域・障がい者・学生、様々な人を繋げる面白いものだと私は思っている。料理を作って、大人数で食べることで、大家族のような温かみがある。また今年度は、レインボー白金のスタッフの方々のご協力もあり、毎月活動を行うことが出来た。来年度の課題は、より多くの地域の方々、学生にこの活動に参加してもらうことだ。特技を持った白金地域の方に匠をお願いすることや、口コミや学内広報などで魅力を伝え、新たなつながりや、面白い企画を打ち出していきたい。また、今年度出来なかった「白金でまったり過ごす会」なども行いたい。



「ハロウィン」イベントで調理中



ハロウィンイベント全体写真

(学生メンバー 心理学部心理学科4年 山本奈穂)

ボランティアセンター新体制に向けて

明治学院大学ボランティアセンターは、来年度から新体制となる。今まで個々に行ってきた企画を「地域活動」、「Do for Smile@ 東日本」プロジェクト、「1 Day for Others」、「海外ボランティア」の4つに大きく分類し、これに学生事務局を加えた5本柱で活動していく。これにより、「地域活動」は白金と横浜の垣根が無くなくなり、今まで以上に活動の幅を広げることが可能となり、「Do for Smile@ 東日本」プロジェクトや「1 Day for Others」では、参加学生をさらに増やすことができるようになる。そして、新たに「海外プログラム事業部」という枠を設け、外部の方と連携してボランティアを企画する等の活動を来年度よりスタートさせる。

私が事務局長を務める学生事務局は、上記4つの柱となる活動がそれぞれの情報を共有できるようにサポートしていくとともに、ボランティアセンターの情報を学生の立場から一般学生や外部の方に広報することを目的に今年度からボランティアセンターに新たに作られた組織である。今年度は、新体制の組織作りや新たな広報活動の企画を行うとともに、新体制へ移行するうえで起こり得る問題点の改善策についても話し合った。学生事務局が本格的に始動したのは、昨年の秋頃からであったが、非常に短い期間だったにも関わらずメンバー間での連携はスムーズに行う事ができたと感じている。現在の学生事務局スタッフは入学当初からボランティアセンターで学生スタッフとして「地域活動」や「Do for Smile@ 東日本」プロジェクト、「1 Day for Others」などの企画に参加しており、なおかつ4人全員が代表や副代表という役職に就き、2年間多くのことを学び、成長してきた。私自身も大学1年次にボランティアセンター学生スタッフに入り、2年次には代表としてさまざまな経験をさせていただいた。来年度からは、今までそれぞれが経験してきた事を活かしながら、学生事務局スタッフとして気持ちを新たに活動していきたい。

(ボランティアセンター学生事務局 事務局長 社会学部社会福祉学科3年 眞木瞳)